

[付録1]

自然文化誌研究会 2017年・2018年の活動記録

黒沢友彦

Appendix 1: A Record of INCH in 2017 and 2018

Tomohiko KUROSAWA

2017年の主だった動き

1. 第39回環境学習セミナー（伝統知研究会）の開催

公益社団法人国土緑化推進機構「緑と水の森林ファンド」中央事業助成を受けた「伝統知」の調査と普及事業は最終年度となり、「第39回環境学習セミナー」としてシンポジウムを4月に神奈川県藤野町で開催。その後、伝統知研究会報告書『都市民と農山村をつなぐ仕事と学びの創造 Creative Learning of Traditional Knowledge and Subsistence 農山村の環境と生活文化から学ぶ都市との交流に関する調査研究報告書』のとりまとめを行った。

2. 事務機能の移転

自然文化誌研究会の事務機能については、同村内に住む事務局長の黒澤自宅に移転した。

3. 活動

(1) 野外環境学習事業（冒険学校・のびと講座・ログ事業）

月日	分類	事業	場所	参加者数
5/3-6	冒険	むらまつりキャンプ	小菅村	7 (1家族)
8/2-8	冒険	こすげ冒険学校	小菅村	14
8/11-12	冒険	やまめキャンプ	小菅村	10 (2家族)
8/12-13	冒険	いわなキャンプ	小菅村	
12/26-28	冒険	まふゆのキャンプ	小菅村	7
4/29	のびと	野草のてんぷらとお茶つみ	東京学芸大学	40
8/12-21	のびと	タイ環境学習キャンプ	タイ	4
9/23-24	のびと	INCHまつり（ライブときのこ）	小菅村	40

(2) ELF 環境学習中堅指導者（のびと）研修会（指導者養成事業）

月日	分類	事業	場所	参加者数
6/10-11	ELF	のびと研修会	小菅村	25

(3) 委託事業・案内など

月日	分類	事業	場所	参加者数
5/13-14	委託	東京学芸大学実習	小菅村	19
6/24-25	協力	劇団鮭スベアレ公演	小菅村	50
7/15-16	委託	岩槻の皆さん	小菅村	10

8/22-24	委託	トムソーヤクラブキャンプ	小菅村	40
9/9-10	委託	SP b企業研修キャンプ	小菅村	12
10/21-22	委託	国立ハーモニカ宿泊	小菅村	0

(4) 広報事業

月日	分類	事業	備考
3/10	会報	会報ナマステ 127号発行	400部
5/25	会報	会報ナマステ 128号発行	400部
9/10	会報	会報ナマステ 129号発行	500部
12/10	会報	会報ナマステ 130号発行	500部
常時	HP	ホームページ、ブログの更新	

(5) 共催事業

月日	事業	場所	参加者数	備考
年間	第12期ちえのわ農学校	東京学芸大学	18	年間10回+宿泊1回

(6) 会議・その他

月日	分類	事業	場所	参加者数
2/18	総会	第13回通常総会・理事会	小菅村	30
4/29	会議	運営委員会	国分寺	10
12/2	会議	運営委員会	小菅村	10

4. 出版物

伝統知研究会報告書『都市民と農山村をつなぐ仕事と学びの創造 Creative Learning of Traditional Knowledge and Subsistence 農山村の環境と生活文化から学ぶ都市との交流に関する調査研究報告書』※公益社団法人国土緑化推進機構「緑と水の森林ファンド」中央事業助成

5. 会員 (2017年12月31日現在)

正会員：34人 一般会員：25人 家族会員：9家族
 学生会員：22人 賛助会員：5人 友の会会員5人 合計100人(年会費納入者)

6. 事務局より

今年の「こすげ冒険学校」では、開催中に線状降水帯(台風ではない)の影響で、避難勧告の指示が出たため、行政からの指示に従い参加者とスタッフの関係者全員で小菅村内の指定避難場所に避難して夜を明かすということがありました(指定避難場所は「きぼうの館」というデイケアセンター)。無事に避難することができ、保護者等の関係者とも順次連絡も取れたので大きな混乱もなく、結果としては緊急時の本番でもあり、また、将来に対しての良い訓練になりました。

「植物と人々の博物館」の移転については、木下稔理事のご尽力と、引っ越しを手伝ってくれた本会のメンバー、東京学芸大学冒険探検部の現役部員の皆さんに感謝しております。

本会が初めて迎える状況としては、創設期のメンバーが順次、定年退職を迎えます。そのため、これまでのように本会への寄付などが難しくなるのでは？ それに伴った予算を組んでいくために、事業の選別を次年度に向けてしていくことを話し合いました。

2018年の主だった動き

1. 「雑穀街道」から「FAO世界農業遺産」登録をめざして

4月9日に「雑穀街道」の関係地域（丹波山村、小菅村、上野原市、藤野町〈相模原市〉）が集い、上野原市役所にて「雑穀街道とFAO世界農業遺産セミナー」を開催。とりあえず、関係地域の「民」の顔合わせと、今後の連携の準備を進めることができた。今後、「FAO世界農業遺産」に手を挙げるためには、行政主導による申請となるが、そのための大きな第一歩になったと思われる。（後述）

2. 「冒険学校運営委員会」を設置

「こすげ冒険学校」では小金井市近辺で情報が広まり、数年ぶりに定員を超える参加者が集まった。今後、円滑に運営していくために本会の組織内に「冒険学校運営委員会」を設置していくことを検討した。

3. 活動

(1) 野外環境学習事業（冒険学校・のびと講座・ログ事業）

月日	分類	事業	場所	参加者数
5/3-6	冒険	むらまつりキャンプ	小菅村	7
8/5-11	冒険	こすげ冒険学校	小菅村	25
8/14-15	冒険	やまめキャンプ	小菅村	12 (3家族)
8/15-16	冒険	いわなキャンプ	小菅村	
12/22-24	冒険	まふゆのキャンプ	小菅村	
4/29	のびと	野草のてんぷらとお茶つき	東京学芸大学	90
8/11-20	のびと	タイ環境学習キャンプ	タイ	3
9/22-23	のびと	INCHまつり（ライブときのこ）	小菅村	30

(2) ELF 環境学習中堅指導者（のびと）研修会（指導者養成事業）

月日	分類	事業	場所	参加者数
6/9-10	ELF	のびと研修会	小菅村	20

(3) 委託事業・案内など

月日	分類	事業	場所	参加者数
6/2-3	委託	東京学芸大学実習	小菅村	20
9/1-2	委託	SP b企業研修キャンプ	小菅村	15

(4) 広報事業

月日	分類	事業	備考
3/10	会報	会報ナマステ 131号発行	500部
5/25	会報	会報ナマステ 132号発行	500部
9/10	会報	会報ナマステ 133号発行	500部
12/10	会報	会報ナマステ 134号発行	500部
常時	HP	ホームページ、ブログの更新	

(5) 共催事業

月日	事業	場所	参加者数	備考
年間	第13期ちえのわ農学校	東京学芸大学	18	年間10回+宿泊1回

(6) 会議・その他

月日	分類	事業	場所	参加者数
2/18	総会	第14回通常総会・理事会	小菅村	30
4/29	会議	運営委員会	国分寺	10

4. 第40回環境学習セミナー報告：雑穀街道とFAO世界農業遺産

・はじめに

「雑穀街道」の提唱とFAO世界農業遺産に登録申請するための準備として、雑穀街道地域である山梨県北都留郡丹波山村、小菅村、上野原市、神奈川県藤野町（相模原市緑区）の4地域で「民」の連携をし、セミナーを開催した。これは民からの提案であり、実際にFAO世界農業遺産に申請登録するには行政からの申請となるため、県知事の下承が必要である。今回は、雑穀をはじめとする伝統的な作物の栽培者、関係者が集うこととなった。また呼びかけにより各地域の行政職員、首長、専門家の参加もあった。

・目的

伝統的な農作物在来品種をめぐる農耕文化、栽培、加工、調理、儀礼などは、縄文時代以来の祖先から継承してきた、現在も生きている大切な文化財である。この山村の生活を豊かにし、健康長寿を支えてきた生物文化多様性がとても大事にされている地域が、私たちの暮らしている関東山地中部地域である。雑穀に象徴される山村の農作物を未来にまで継承するために、山梨県丹波山村から神奈川県相模原市緑区までを「雑穀街道」と呼んで、FAO世界農業遺産に登録申請したい。

・日程

日時：2018年4月9日（月） 13：00～16：00

場所：山梨県上野原市役所 展示室3

参加者：関心ある方々どなたでも

参加費：無料

主催：NPO法人自然文化誌研究会／雑穀街道普及会

共催：農業法人藤野倶楽部、NPO法人さいはら、ほか

・プログラム

12：00～13：00 受け付け、地域活動の展示紹介

13：00～14：00 雑穀街道の提案趣旨、雑穀街道普及会の全体提案

・木俣美樹男（農山漁村文化協会理事、東京学芸大学名誉教授）

14：00～15：00 <各地域からの報告>

1) 小菅村・丹波山村から雑穀栽培の現状、取り組みの経緯など

・黒澤友彦（NPO自然文化誌研究会事務局長、雑穀栽培講習会）

・岡部良雄（丹波山村雑穀栽培農家）

2) 上野原市西原地区での雑穀栽培の現状、クラウドファンディングの取り組み

- ・ 富澤太郎（上野原市農業委員、やまはた農園）
- ・ 中川智（雑穀栽培農家）

3) 相模原市緑区藤野町、相模湖町の雑穀栽培の取り組み、お茶農家の話など

- ・ 宮本透（宮本茶園、雑穀栽培農家）

15:10～16:00 全体のまとめと未来への提言

- ・ 藤村達人（相模原市農業委員、筑波大学名誉教授）

・ おわりに

今回の集いにより、各地域の雑穀栽培の担い手がつながることができた。各地域単体では先細りの雑穀栽培も、地域連携により協力体制ができるかもしれない。西原地区の「雑穀トラスト・お山の雑穀応援団」のクラウドファンディングは、早々に目標の50万円に達したと聞いている。FAO世界農業遺産の登録申請への壁は高いが、地域での現状は共有できた一歩となった。

雑穀街道づくりへ

栽培の山梨県境～相模原
上野原でセミナー35人

伝統的な山地農耕の雑穀栽培が、山梨県上野原市、小菅村、丹波山たはやま村と相模原市藤野地区を結ぶ雑穀街道づくりに向けて、上野原市で「雑穀街道FAO(国連食糧農業機関)世界農業遺産セミナー」が、上野原市4ヶ所、丹波山

「雑穀街道」は、雑穀栽培の担い手をつなぐ。上野原市でセミナーを開催し、雑穀栽培の現状や課題について話し合った。上野原市農業委員の富澤太郎氏が、雑穀栽培の重要性を説明した。

雑穀栽培は、山梨県上野原市西原地区で「やまはた農園」を営む富澤太郎さん(32)が、インターネットを介して資金を調達するクラウドファンディング

「雑穀トラスト・お山の雑穀応援団」を始めた。雑穀栽培を巡るクラウドファンディングは珍しいといい、雑穀の種まきが始まる5月6日までに50万円を目標にしている。【高橋和夫】

雑穀栽培は、山梨県上野原市西原地区で「やまはた農園」を営む富澤太郎さん(32)が、インターネットを介して資金を調達するクラウドファンディング

「雑穀トラスト・お山の雑穀応援団」を始めた。雑穀栽培を巡るクラウドファンディングは珍しいといい、雑穀の種まきが始まる5月6日までに50万円を目標にしている。【高橋和夫】

毎日新聞記事より (2018.4.12)

雑穀栽培 次世代へ

山梨で農園「地元の雇用にも」

雑穀栽培は、山梨県上野原市西原地区で「やまはた農園」を営む富澤太郎さん(32)が、インターネットを介して資金を調達するクラウドファンディング

「雑穀トラスト・お山の雑穀応援団」を始めた。雑穀栽培を巡るクラウドファンディングは珍しいといい、雑穀の種まきが始まる5月6日までに50万円を目標にしている。【高橋和夫】

雑穀栽培は、山梨県上野原市西原地区で「やまはた農園」を営む富澤太郎さん(32)が、インターネットを介して資金を調達するクラウドファンディング

「雑穀トラスト・お山の雑穀応援団」を始めた。雑穀栽培を巡るクラウドファンディングは珍しいといい、雑穀の種まきが始まる5月6日までに50万円を目標にしている。【高橋和夫】

雑穀栽培は、山梨県上野原市西原地区で「やまはた農園」を営む富澤太郎さん(32)が、インターネットを介して資金を調達するクラウドファンディング

「雑穀トラスト・お山の雑穀応援団」を始めた。雑穀栽培を巡るクラウドファンディングは珍しいといい、雑穀の種まきが始まる5月6日までに50万円を目標にしている。【高橋和夫】

毎日新聞記事 (2018.4.19)

5. 会員 (2018年12月31日現在)

正会員：31人 一般会員：34人 家族会員：9家族

学生会員：34人 賛助会員：5人 友の会会員3人 合計116人(年会費納入者)

*今年子ども会員が増えています。

6. 事務局より

3年前、本会は40周年記念パーティーをしました。「第35回環境学習セミナー」として開催し、懐かしいメンバーと小菅村民も集まり、本会の現状を垣間見ることができました。その際に出た話でもあります。本会がなぜ40年続いてきたか？ 続けることができているか？

労力だけでなく、経済的にも多大な負担をしてきてくれた人たちがいます。本会が「冒険・探検」をキーワードに、パイオニアワークを目指す会であり、単なる教育屋ではなくキャンプ屋でもない、もっと大きな懐を持った集団であるからだと……、非常に抽象的ですが。ということで、本会の良さを噛みしめつつ、広げるところは広げ、守るところは守って、引き続き会員の皆さまと協力しながら進めていきたいと思えます。

あとは運営と経営。一般的な給与体制というか、右肩上がりというか、ある程度一般的なNPOであったり、活動に合わせた団体の大きさを目指している感もありましたが(目指さない訳はないかな)、どうやら本会では難しい。それはそうだ、夏の一大事業である「こすげ冒険学校」は、6泊7日で1回のみの開催。参加者の定員はたった20名。スタッフは参加者と同数以上。おまけに参加費も自然体験団体の世界の相場よりも安いときたら、それは一般的な稼ぎや儲けとは程遠い訳で…。でも、一般的とされるキャンプじゃ魅力ないから人も集まらないし、こんなに続かないので、これが本会の特長の一つでもあるから、受け入れています。

事務局の給与を下げ、事業を減らし、本会が目指す事業のみに特化して取り組むということで、しばらくやっていけるんじゃないか……。生活と仕事をごちゃ混ぜにして暮らす自分自身としてはそれはアリだし、小菅村在住15年目の自分には、事務局給与に代わる稼ぐ手段や生業があるというのが、本会のおかげで身についたことですから、全く問題ないと考えています。他団体では、助成金を上手に活用して、上手に展開しているところもあるけれども、私が事務局のうちは難しいな。それよりも、業務を絞って時間の余裕をもらって会員サービスしますよ。「会を大きくしたいなら事務局を代えましょう。私も理事として協力しますよ」と、冷静に思うことができます。

2018年はそんなことを考えながら取り組みました。自分が抜けても事業が維持できるように、体制づくりと事業の整理を引き続きしていきます(全然、ヤメる気はないですけども)。